

氏名	渡辺 忍
学位の種類	博士（社会福祉学）
学位記番号	甲第 72 号
学位記授与の日付	2020 年 3 月 13 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当
学位論文題目	在宅医療・介護連携における情報共有のあり方：インスリン療法を行う要介護者支援をモデルに
論文審査委員	審査委員長 小原 眞知子 審査委員 佐々木 由恵（主指導教員） 審査委員 鶴岡 浩樹（副指導教員） 審査委員 下垣 光 審査委員 森 千佐子

**題目：在宅医療・介護連携における情報共有のあり方：インスリン療法を行う要介護者支援をモデルに**

Improving Information-Sharing Between Medical and Long-Term Care Providers:  
Modelling support for elderly people requiring long-term care and insulin therapy at home

氏名：渡辺 忍 Shinobu Watanabe

**要旨：**

インスリン療法を行う要介護者の支援をモデルに、介護支援専門員がとらえる要介護者の在宅生活の実態とケアマネジメント上の課題、在宅医療・介護連携における介護支援専門員の情報把握と多職種連携行動の実態と関連、医療者との情報共有を標準化するための要因を明らかにすることを目的に調査を行った。

調査は、在宅でインスリン療法を行う要介護者支援に必要な情報項目を抽出するためのデルファイ法による調査と、A 県内の全居宅介護支援事業所に在籍しインスリン療法を行う要介護者のケアマネジメント担当経験のある介護支援専門員に対する質問紙調査を行った。デルファイ法では共有すべき情報項目の重要度を明らかにした。質問紙調査では、インスリン療法に関する介護支援専門員の背景、情報把握と多職種連携行動の実態との関連を統計的に検討した。また質問紙の自由記載による調査では医療者との情報共有上の困難について尋ね、記載内容の質的記述的分析を行った。

結果、在宅でインスリン療法を行う要介護者支援に必要な情報項目のうち、最重要と判断されたものは緊急時対応等に関する 23 項目で、介護支援専門員が把握すべき情報と考えられた。その 23 項目の介護支援専門員の把握度と多職種連携行動に相関がみられた。看護師資格の有無に関わらず情報把握度と関連がみられた項目は、訪問看護利用の有無 ( $p=.006$ ) と医療者との連絡手段の有無 ( $p=.000$ ) であった。また自由記載内容から、前述の要因の他、介護支援専門員がとらえる医療者との情報共有上の課題として、医療機関による連携方法や意識の違い等によっても情報が得にくい現状が指摘され、医療者からの情報発信を求めていることが明らかとなった。

在宅医療・介護連携で情報共有を標準化するためには、共有手段や必要な情報内容を話し合うこと、介護支援専門員が情報把握できるよう医療者から情報発信する働きかけが必要と示唆された。

## **【Abstract】**

### **Improving Information-Sharing Between Medical and Long-Term Care Providers: Modelling support for elderly people requiring long-term care and insulin therapy at home**

**Shinobu Watanabe**

This study aimed to identify information-sharing issues from the perspective of care managers, related to the collaborative model for supporting people on insulin therapy who receive long-term care at home, that may affect the care recipients' lives and care management. In addition, we explored factors in the relationship between the types of information care managers currently have and their collaborative behaviours, which could be used to set standards for information-sharing in their collaborations with medical care providers.

Using the Delphi Method, we identified and prioritised the types of information that care managers and medical providers need to share to enable the provision of services to elderly people on insulin therapy and requiring long-term care while living at home. In addition, a questionnaire survey was conducted among care managers with experience in managing home care for patients on insulin therapy, who were registered with all the long-term care home service agencies in "A" Prefecture. Survey responses were statistically analysed to look for relationships between care manager background, types of information, and collaborative behaviours related to patients' insulin treatment. In addition, a qualitative analysis was performed on free responses to a question regarding perceived difficulties in obtaining information from medical providers.

Results of the prioritisation survey revealed 23 types of information related to handling emergencies and other situations to be the most important information care managers needed to provide for long-term home care for elderly people requiring insulin therapy. In the next survey, statistical analyses were performed, and correlations were found between the extent to which care managers had those pieces of information and their collaborative behaviours. For both care managers with and without nursing qualifications, significant differences were found between whether a visiting nurse was being used ( $p = .006$ ) and whether the manager had means to contact medical providers ( $p = .000$ ). In addition, free responses regarding perceived issues related to medical provider information-sharing showed that care managers sought information from medical providers. However, the information be difficult to obtain due to differences in medical facility perceptions and approaches to

collaboration with other care professionals.

Our results suggest that to set standards for the collaborations between medical and long-term care providers, what information should be shared and how needs to be discussed, and medical care providers need to reach out to care managers to access the information they need.

## 【審査結果の要旨】

### 1 審査委員の構成と審査の経過

博士論文審査は、日本社会事業大学大学院学則、同学位規定及び同博士後期課程修了細則に基づき、第3次予備審査及び最終審査から成り立っている。審査委員は、社会福祉学研究科委員会にて選任された大学院担当の専任教員5名が担当した。5名の氏名と専門分野は以下のとおりである。

審査委員長	小原 眞知子	医療福祉、ソーシャルワーク論、高齢者家族支援
審査委員	佐々木 由恵	高齢者保健福祉 介護サービスサイエンス
審査委員	鶴岡 浩樹	高齢者保健福祉 地域医療 プライマリ・ケア
審査委員	下垣 光	高齢者保健福祉 認知症高齢者支援
審査委員	森 千佐子	高齢者支援、介護者支援、多職種連携、介護福祉教育

2019年10月31日までに提出された第3次予備審査博士論文について、審査委員がそれぞれ精読し、11月30日の公開口述試験を行った。それらの審査を踏まえた各審査委員の指摘事項を審査委員長がとりまとめ、2020年1月7日までの修正を認め、審査委員会は指摘事項に対応した論文の提出を受けて審査を行った。その結果、5名の審査委員全員が合格とし、審査委員会において第3次予備審査の合格が了承された。次いで、2月5日までに最終審査及び最終試験の申請がなされ、審査委員会は、提出された本論文は博士（社会福祉学）の学位を授与するにふさわしいとの結論に達した。それを踏まえ、審査委員5名連名による「博士論文最終審査及び最終試験結果報告書」が作成され、2020年2月20日の社会福祉学研究科委員会にて審査結果が提案され、了承を得た。

本学学長は、これらの手続きを経て、2020年3月13日に「博士(社会福祉学)」の学位を与えることとした。

### 2 博士論文の評価

本論文は、医療的管理の視点が必要とされているインスリン療養中の要介護者を支援している介護支援専門員が基礎資格に関係なく、情報共有に必要な諸項目を明確にした点は優れており、博士論文の独自性が示されている。今後の我が国においても有益であり、成果物としては貴重である。加えて糖尿病患者の在宅医療と連携のための情報共有ツールにつながるものとして今後の発展性を秘めた、意義深い研究である。

本論文では大きくわけて、4つの調査から構成されている。第1段階では、これまで明らかにされてこなかったインスリン療法を行う要介護者の在宅生活の実態を明らかにするために、介護支援専門員に対する量的調査を通して、在宅生活の実態と医療者からの支援の必要性を明示した。第2段階では、介護支援専門員が医療者と共にインスリン療法を行う要介護者の医療的側面を含めた情報共有の必要性を明確にしている。その上で医療者と介護支援専門員が必要な情報項目をデルファイ法による調査を通して140項目を精査し、23項目を最重要項目として提示してい

る。第3段階では、多職種連携行動を把握するために、量的調査を通して、情報共有の標準化の可能性を示した。第4段階では、介護支援専門員に対して、医療職と共有する際に生じた困難性について質的研究を通して情報共有に影響を与える外的・内的要因を明らかにした。

これらの一連の研究を通して、在宅医療・介護連携における情報共有のモデルとして、医療者側、そして介護支援専門員の双方で把握すべき情報項目を提示できた。これは、インスリン療養中の在宅要介護高齢者の増加が見込まれているわが国の在宅医療・福祉の現場において、非常に有益であると確信する。本審査委員会では、本論文を課程博士論文として十分な水準に達していると判断し、合格とするとの合意に至った。

### 3 最終試験の結果

最終提出された博士論文は十分な水準に達していると判断した。本論文全体として、緻密な先行研究の上に複数の調査を重ねており、特に介護支援専門員におけるインスリンの医療的管理の視点の重要性と介護支援専門員の基礎資格での知識の差を除外して、介護支援専門員の情報共有の項目を明確にしたことに本研究の独自性と意義がある。また、在宅医療・介護連携の情報項目が多職種連携の促進につながることを実証した点は非常に大きな成果である。

基礎資格が医療職ではない介護支援専門員でも、インスリンの医療的管理に必要な患者の在宅医療を支えるための連携協働には欠くことのできない情報共有ツールは今後の地域包括ケアシステムの推進を鑑みても本研究は今後の我が国にとっても非常に有益である。